

令和7年度 東京都立第一商業高等学校 学校経営報告

1 令和7年度の取組目標と自己評価

項目	取組目標	自己評価
1 学校経営	(1)IBLハイスクールを柱とする新しい一商教育モデルの継承 (2)適正な入選倍率の確保 (3)体罰の禁止	(1)IBLハイスクール指定1年目の指定を受け、連携校との合同発表及び Tips フォーラムでの発表を1学年「人間と社会」を中心に担当することとし、年間計画を策定して概ね予定通り実施できた。 (2)推薦に基づく入学者選抜0.94倍(前年度1.49倍)学力検査に基づく入学者選抜0.51倍(同0.87倍)とこの5年間で最も低倍率となった。このことを分析すると校長が中心となっている出前授業の受検倍率向上のための効果が大幅に低下したことに主因がある。故に今回適正な入選倍率を確保できなかった責任の大半は校長にある。次年度は出前授業の在り方を大幅に見直す必要がある。 (3)全教職員は職務規律を遵守し、体罰事案は0件であった。
2 学習指導	(1)自己肯定感を高める学習指導 (2)基礎学力の定着 (3)渋谷学の着実な実施	(1)(2)学校評価アンケートでは「わかりやすい授業の工夫」について肯定的回答が63%(前年度83%)に下降し、3年前と同程度の水準にとどまった。 (3)地域探究推進校からIBLハイスクールに移行しても引き続き渋谷学の取り組みを実施することができた。
3 生活指導	(1)ビジネスパーソンとして必要なモラルやマナーの指導 (2)いじめの未然防止と安心・安全な学校づくり	(1)学校評価アンケートでは「基本的な生活習慣」の肯定的回答が68%(前年度84%)に下降し、一昨年(72%)とほぼ同水準にとどまった。 (2)学校いじめ対策委員会で情報を共有し、生命尊重の教育を推進し、いじめのない安心・安全な学校づくりを推進し、外部専門家を招いてSNSに関する教育も行った。
4 進路指導	(1)就職希望者の進路実現 (2)進学希望者の進路実現 (3)公務員希望者の進路実現	(1)就職者は25名(15%)と平均的で全員が卒業までに就職内定を得た。 (2)日東駒専の合格者が総合型選抜を含めて2桁(11名)になった。 (3)公務員試験は国税庁を含む2名の生徒が合格した。
5 保健指導	(1)感染症予防の徹底 (2)校内外の美化の励行	(1)新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザなどの感染症予防に力を入れたが2学期の修学旅行後にインフルエンザで複数の学級閉鎖が発生した。 (2)校内及び校外における美化を推進するとともに、環境保全を図る活動に取り組んだ。
6 特別活動・部活動	(1)ポストコロナの学校行事の工夫 (2)部活動の振興	(1)今年度の文化祭でも一般公開を実施したが、懸念された文化祭後の感染症拡大は見られなかった。 (2)今年度もサッカー部の商高連大会優勝など多くの部活動で生徒の活躍が見られた。
7 募集・広報	(1)募集・広報活動の見直しと改善 (2)学校開放事業の推進	(1)募集・広報活動を一から見直し、管理職と総務部と商業科が三位一体となって取り組んだが残念ながら結果には十分には結びつかなかった。 (2)地域及びPTAと連携し、地域の行事に協力した。学校開放事業も予定通り実施した。

2 令和8年度以降の課題とそれに対する改善策

令和3年度から4か年計画で取り組んだ東京都の地域探究推進事業に基づく地域探究学習を柱とする新しい一商教育モデルは一応の完成をみた。令和7年度以降もこの地域探究学習を継続・改善するために新たに東京都のIBLハイスクールの指定を受け、これまでの取り組みをさらに継続・発展させることができた。しかし残念ながら令和8年度はIBLハイスクールの指定を受けられなかったため、校内で自律経営推進予算を活用しながら取り組みを継続する工夫が必要である。

また3年連続で実現できなかった学力検査に基づく入学者選抜における適正な倍率確保も令和8年度の大きな課題である。これまでの募集・広報の取り組みのうち今年度成果に乏しかった出前授業の在り方を含め体制の見直しを指示した。